

(様式1)

平成23年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 120	提案機関名 環境農政局 水・緑部 水産課
要望問題名	トラフグ、ヒラメの適正放流条件の解明（種苗放流適地の明確化）
要望問題の内容	【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 トラフグは新たな栽培漁業対象種として注目され、漁業者からの種苗放流に対する要望も高く、試験的な放流による諸データが蓄積され始めている。先進地である有明海の結果では、放流地点によってその後の放流効果に30倍以上の差が生じることが報告されており、放流適地の選定が大きな課題と指摘している。また、ヒラメについても稚魚の成育環境を考慮した放流をすることが生き残りを高めることから、地先の放流を求めたがる漁業者の認識を改め、放流適地に集中的に放流することが必要である。そのために適正放流条件を解明し、県内のトラフグ及びヒラメ種苗の放流適地を明らかにすることを要望する。
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培技術部
対応区分	①実施 ②実施中 <input checked="" type="checkbox"/> ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	<p>平成23年度より栽培漁業放流技術開発事業において、トラフグの種苗生産を開始し現在より放流尾数を増やす計画であります。放流効果などについては、引続き水揚げ魚市場において再捕状況などを調査する予定であります。</p> <p>放流されたヒラメについては、引続きモニタリング調査により水揚げ市場において再捕状況調査を行う予定であります。</p> <p>放流適地につきましては、再捕状況調査結果やご要望にありました有明海の事例などの文献を参考に、調査計画などを検討してまいりたいと存じます。</p>		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			